

3. 文化芸術

(1) 文化芸術とは

文化芸術は、「みる（鑑賞・観覧等）」、「する（活動・参加等）」、「ささえる（普及・継承・指導等）」とを分けて定義づけています。なお、文化芸術の主体は広く、性別・年齢・障害の有無等によって様々です。「みる」は、展示物や上演・上映される作品を観る・聴く・感じることを指し、基本的には「みる」ために自ら会場に出向く活動を伴うものを指しますが、オンライン視聴等も主体的に「みる」行為にあたり定義の拡大が進んでいます。「する」は、自宅や教室、サークル等での趣味の活動、展示会・公演等の開催や出展・出演等、自ら行う活動を指し、プロから愛好家（個人・団体）まで、レベル別の視点も含まれますが、体験等の一時的なものではなく、継続して行うことが必要となります。「ささえる」は、子ども達や後進への文化芸術の継承やボランティア等による指導育成・運営への参加等を指します。

(2) 現状と課題

① 文化芸術に触れることができる機会の確保

区では、シビックホール等を利用したコンサートや演劇等の鑑賞事業、展示室・ふるさと歴史館・森鷗外記念館を利用した企画展、能楽や競技かるたをはじめとした区にゆかりのある文化芸術の体験事業等、様々な文化芸術に触れることができる機会を設けてきました。令和元年度に行った調査によると、過去1年間に出かけて文化芸術を鑑賞した区民の割合は81.2%となっており、多くの区民が文化芸術を鑑賞していることがわかります。また、文化芸術活動については、32.4%の区民が行っている状況です。

しかし、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により、区民や団体が文化芸術活動や鑑賞を行うことが難しい状況となっています。

文化芸術活動等の停滞を防ぐためには、オンライン配信等を利用した鑑賞や練習の機会の確保のほか、感染症対策を徹底した中での事業実施の検討等、これまでと異なる

《過去1年間における文化芸術の鑑賞率》

種類	割合
今回調査	81.2%
前回調査	79.5%
国	53.9%
都	72.6%

注)「都」は文化イベントの参加も含む。

《過去1年間における文化芸術の活動率》

種類	割合
今回調査	32.4%
前回調査	21.5%
国	25.3%
都	30.1%

【出典】文京区（令和元年度）「実態調査」

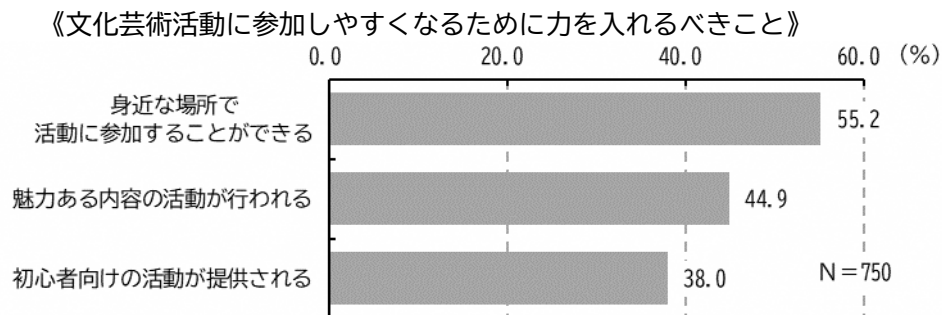
るアプローチが求められます。あわせて、だれもが文化芸術に触れることができる社会の実現のため、性別や年齢、障害の有無等の様々な状況に応じて、文化芸術を楽しむ機会を充実させることが必要です。

② 文化芸術の次代を担う人材の育成

長年にわたり主催してきた文京区秋の文化祭（華道展・茶会・書道展・絵画展）や各種文化のつどい・大会（謡曲大会や合唱のつどいなど）などの文化事業は、区民の日頃の成果を発表する場となるだけでなく、区内各文化芸術団体との協働により事業を実施することから、区の文化芸術の担い手育成にも寄与してきました。

しかし、地域活動における文化芸術の担い手の高齢化が進んでいます。これまで地域で育まれてきた文化を次代につなぐためにも、担い手を育成することが喫緊の課題となっています。そのためには、多くの区民に文化芸術に興味・関心を持ってもらうことが不可欠となります。実態調査によると、区民が文化芸術の活動に参加しやすくなるために、区が力を入れるべきこととして、身近な場所での活動や魅力的な内容の活動のほか、初心者向けの活動を望む声が多く聞かれました。

文化芸術の担い手の育成にあたっては、現在の主な担い手となっている中高年層が、子ども達に文化芸術の楽しさを伝える世代間交流事業の充実を図るほか、学習分野との連携により、文化芸術への入り口となる機会や子ども達のニーズに合ったプログラムを提供することで、文化芸術への興味・関心を高めることが求められます。また、多くの人々が文化芸術に触れられる機会を創出するため、区と各文化芸術団体が連携して事業を実施するなどの取組が必要です。



【出典】文京区（令和元年度）「実態調査」

③ 文化資源の再発見と活用の推進

近年、積極的に取り組んでいる能楽や競技かるたをテーマとした文化事業等は、長い歳月をかけて育まれてきた区にゆかりのある文化資源について、改めて区民が触れ・知る機会を創出するとともに、その魅力を区内外に発信していくものです。

文化資源の中には、区民から寄贈された昔の生活用具など、区が現物を保管しているものがあり、今後の寄贈に対応するため、デジタル化や新たな保管場所の確保などの対応策を考える必要があります。

また、文化資源の効果的な活用に向けて、観光分野をはじめ、他の分野と連携を図り、地域に存在する文化資源の再発見と適切な活用を推進することや、デジタル技術など新しい技術の活用を推進していく観点も求められます。さらに、文化芸術の発信に向けては、オンライン等の新たな発信方法の活用を検討する必要があります。

④ 文化芸術の性質を踏まえた支援の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により、長年地域で行われてきた文化芸術イベントを開催することが難しい状況となっています。また、活動機会を設けられないことは、各団体のメンバーの減少につながっていきます。

今後、活動を再開し再び軌道に乗せていくには、資金や労力等がかかり、非常に負担が大きいものと思われます。

区民の文化芸術活動を推進し、区の文化資源を継承していくためには、長期的な視点に基づくとともに、多角的な支援のあり方を検討していく必要があります。

現状と課題のまとめ

- ①文化芸術に触れることができる機会の確保
- ②文化芸術の次代を担う人材の育成
- ③文化資源の再発見と活用の推進
- ④文化芸術の性質を踏まえた支援の充実

(3) 施策体系の考え方

現状と課題を踏まえると、新型コロナウイルス感染症の影響により、区民や団体における、活動及び鑑賞の機会の確保や、文化芸術の担い手の育成が重要な課題となっています。文化芸術を停滞させることなく、だれもが楽しむことができるようにするとともに、これまで育んできた文化芸術を次代につなげることが重要です。また、区には様々な文化資源があるため、それらの効果的な活用と、情報の発信が求められます。

区の文化芸術の振興に向けて、だれもが文化芸術に親しめるように、区民や団体の活動や鑑賞機会を充実させ、文化芸術活動を楽しむ機会を創出するとともに、これからの文化芸術を支える人材の育成支援の充実を図ります。さらに、区内に存在する文化資源を効果的に活用したまちづくりを推進します。

(4) 施策体系

文化芸術分野の施策体系は以下のとおりです。

基本方針	施策
① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる（鑑賞・観覧等）】	
	ア だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実
	イ 多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供
	ウ 活動につながる契機としての鑑賞機会の提供
② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する（活動・参加等）】	
	ア 文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実
	イ 市民団体等の活動に対する支援の充実
	ウ 文化芸術活動の場の提供
③ 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる（普及・継承・指導等）】	
	ア 次代を担う層が文化芸術への関心をもつきっかけとなる機会の充実
	イ 文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成
	ウ 多様な主体との連携・協力による文化資源の継承
	エ 人材・組織（町会・地域クラブ）との連携・協働
④ 地域の資源を活かしたまちづくりの推進	
	ア 文化資源を活用した事業の推進
	イ 特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信
	ウ 地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進

(5) 基本方針ごとの具体的な取組

1

だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり
【みる（鑑賞・観覧等）】

性別、年齢や障害の有無・国籍等によらず、また、新型コロナウイルス感染症の影響等も踏まえ、場所や時間等に関わらず文化芸術を鑑賞できることは重要です。そのため、オンライン等も活用しながら、区民のだれもが場所や時間を問わずに、文化芸術を鑑賞できる環境づくりを推進します。

指標	現状値	目標値
1年間に文化芸術を鑑賞した人の割合	81.2% (令和元年度)	83.0%
文化事業への参加者・来場者数	22,595人 (令和元年度)	25,000人

ア だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実

性別、年齢や障害の有無・国籍等に関わらず、だれもが文化芸術を身近に鑑賞できるよう、機会の充実を図ります。



写真：三浦興一

BUNKYO SIENA POPS
わが青春のポピュラーミュージック！

主な取組

■文化芸術の鑑賞機会の提供

文京シビックホールや区内施設等の様々な場所で、コンサート等の文化芸術事業を展開することで、だれもが文化芸術を鑑賞できる機会を創出します。

■多様な文化芸術に触れる機会の創出

文化芸術に取り組む方や観る方が、文化芸術の多様性を感じることでできる事業を展開します。

【分野間連携】

- ▶ 文化面で連携している国内交流自治体の協力を得て、区民が国内交流自治体に根付いた文化を鑑賞できる機会を創出します。

イ 多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供

従来の文化芸術の鑑賞方法に加え、オンラインをはじめとする多様な手法を用いて鑑賞機会を提供し、区民がいつでもどこでも文化芸術に触れることができるようにします。



区立小学生のための出前コンサート
(東京フィルハーモニー交響楽団)

主な取組

■ 大学等との連携による文化イベントの実施

大学と連携し、文京ゆかりの作家の作品を課題作とした朗読コンテストなど、各種文化イベントを実施します。

■ 時間や場所を選ばない鑑賞機会の充実

コンサート、演劇、能楽等の文化芸術事業について、民間や大学等の協力により、ホール等での鑑賞に加え、オンラインを活用することにより、時間や場所に関わらず文化芸術に触れられる機会を提供します。

ウ 活動につながる契機としての鑑賞機会の提供

文化芸術の鑑賞が、活動へとつながる契機となることを踏まえ、様々な文化芸術の鑑賞機会を提供します。

主な取組

■ 活動につながる文化芸術の鑑賞機会の提供

文京区秋の文化祭、各種つどい・大会事業など、区民活動の発表の機会を設け、鑑賞から実践的な活動等につながる契機となるよう、区内団体との協働により、鑑賞・活動・発表・運営をそれぞれ連動した一体的なものとして実施します。

2

だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出 【する（活動・参加等）】

区民がそれぞれの興味・関心やレベルに応じて、文化芸術活動を楽しむことができるよう、だれもが気軽に文化芸術活動を行うことのできる環境づくりを推進します。

指標	現状値	目標値
1年間に文化芸術活動をした人の割合	32.4% (令和元年度)	40.0%

ア 文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実

区民がそれぞれの興味・関心に応じて、文化芸術活動を楽しむことができる機会の充実を図ります。



競技かるたデモンストレーション

主な取組

■ 大学との連携による文化イベントの実施【再掲】

大学と連携し、文京ゆかりの作家の作品を課題作とした朗読コンテストなど、各種文化イベントを実施します。


■ 区にゆかりがある文化の体験機会の提供

能楽や競技かるたなど区にゆかりがある文化資源の魅力に触れられるよう、講演会や体験イベント等を実施します。

■ 観客参加型講演の実施

鑑賞に加えてワークショップなどの体験機会を設けることで、観るだけではわからない文化芸術活動の奥深さを体感する機会を創出します。

【分野間連携】

- ▶ 文化面で連携している国内交流自治体や関係団体の協力を得て、区民が国内交流自治体に根付いた文化を実際に体験できる機会を創出します。 

イ 市民団体等の活動に対する支援の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により、区民団体等の活動機会が減少していますが、今後、区の事業や区民の文化芸術活動を感染症流行前の状態に戻していき、さらに発展・継承していくために、多角的な視点からの支援の充実を図ります。

主な取組

■区民の自主的なサークル・団体への活動支援【再掲】

学習・スポーツ・文化活動を行う団体として登録された社会教育関係団体に対して、施設の優先利用や利用料金の減免などを行います。また、文京区生涯学習サークル連絡会によって実施される公開講座、合同学習会等の各種自主学習活動への支援を行います。

ウ 文化芸術活動の場の提供

講習会の実施や発表の機会の提供など、区民が文化芸術活動を行うことができる場を提供します。



©三浦 彩

区民参加オペラ ビゼー作曲「カルメン」

主な取組

■文化芸術活動の機会の提供

区民を対象にオペラ公演の開催を目標とする講習会を実施し、卒業公演を開催します。また、日頃の文化芸術活動の目標となるよう、文京区秋の文化祭や各種つどい・大会事業の実施等により、成果を発表できる場を設けます。

■文化芸術活動の場の提供

区民が文化芸術活動を行うことができる会場の提供を行います。

3

文化芸術を支える人材の育成支援の充実
【ささえる（普及・継承・指導等）】

これまで地域で生まれ、受け継がれてきた文化や芸術を普及・継承していくためには、子ども達を含む次代を担う人材を育成することが重要です。そのため、次代を担う層に対して、文化芸術に親しむことのできる機会を充実させるとともに、地域の多様な主体と連携・協力をしながら、文化芸術の担い手育成を推進し、貴重な文化資源を次代へと継承していきます。

指標	現状値	目標値
若年層（20歳未満）の文化祭・各種つどい・大会への出品及び出演者数	—	200人
区文化事業への若年層（20歳未満）の参加者数	—	1,500人

※「—」については、本計画策定時に現状値を把握できていないものになります。

ア 次代を担う層が文化芸術への関心を持つきっかけとなる機会の充実

文化芸術を鑑賞する機会の充実を図るとともに、子ども達を対象とした文化芸術の体験プログラムの実施など、次代を担う層が、文化芸術へ関心を持つきっかけとなる機会を充実します。



能プロジェクト（宝生能楽堂）

主な取組

■文化芸術の鑑賞及び発表の機会の提供

文化庁の支援制度である伝統文化親子教室で、華道や謡曲等の伝統文化を学んだ子ども達の発表の場や、区民が伝統文化を鑑賞する機会として、文京区秋の文化祭、各種つどい・大会事業等を実施します。

■関係団体との協力による文化芸術プログラムの実施

能楽や競技かるた等区内の貴重な文化資源について、子ども達に興味を持ってもらえるよう、区内関係団体と連携し、「鑑賞」や「体験」を交えたプログラムを実施します。

イ 文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成

文京区において、これまで育まれてきた文化芸術を次代に継承するため、文化芸術を支え、伝える担い手を育成します。



秋の文化祭絵画展

主な取組

■文化芸術事業の協働

区内文化芸術団体と協働して文京区秋の文化祭や各種つどい・大会事業などを実施することで、活動者の意見を取り入れた継続的で安定的な運営を図るとともに、運営ノウハウの継承を通じて文化芸術を支え、伝える担い手の育成を図ります。

■関係団体との協力による文化芸術プログラムの実施【再掲】

能やかなる等区内の貴重な文化資源について、子どもたちに興味を持ってもらえるよう、区内関係団体と連携し、「鑑賞」や「体験」を交えたプログラムを実施します。

ウ 多様な主体との連携・協力による文化資源の継承

区内には貴重な文化資源が数多く存在しますが、文化資源を守り、将来に継承していくために、文化芸術の鑑賞機会の充実や体験イベントの実施など、区民の関心を喚起する取組を推進します。取組の推進にあたっては、多様な主体と連携・協力します。

主な取組

■文化芸術事業の継続実施

長年にわたり区内で育まれてきた文化芸術活動を継承していくため、区内の多様な主体と協働し、文京区秋の文化祭や各種つどい・大会事業、企画展、鑑賞会等を実施します。

4 地域の資源を活かしたまちづくりの推進

区の様々な文化資源を観光や産業など他分野と連携して活用することにより、地域の特色ある文化資源の魅力を区内外に積極的に発信するとともに、地域の文化資源を活用したまちづくりを推進します。

指標	現状値	目標値
文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館の区民認知度	—	70.0%
文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館来館者の展示に関する満足度	82.3% (令和3年度)	90.0%

※「—」については、本計画策定時に現状値を把握できていないものになります。

ア 文化資源を活用した事業の推進

区の魅力をアピールするため、区内の様々な文化資源を活用した事業を推進します。

主な取組

■文化資源を体験する機会の充実


能楽や競技かるたをはじめとした区にゆかりのある貴重な文化資源について、関係団体との協働により、より多くの区民に興味関心を持ってもらえるように、その魅力を発信するとともに、体験する機会の充実を図ります。

■他分野との連携による文化資源の発信・活用

区にゆかりのある文化資源を、分野の枠を越えて、区内外の様々な機関や主体と連携を図り発信していきます。

文化資源の有効活用を行うため、庁内の連携を推進していきます。

【分野間連携】

- 区内の観光資源や国内交流自治体にゆかりのある文化資源なども紹介し、区民が触れる資源の幅を広げます。 

■資料の保管に関する検討

寄贈などで区が保管している資料の保管場所及び保管方法等について、今後の取扱を庁内で検討していきます。

イ 特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信

区の様々な魅力を知ってもらうためには、区内の文化資源に関する資料の収集や調査研究を行い、その文化資源が持つ魅力を確認、再発見するとともに、その魅力を多様な形式で発信します。




文京ふるさと歴史館特別展

主な取組

■文京ゆかりの文化人顕彰の実施

森鷗外をはじめ、区に足跡を残した文化人を顕彰し、多様な文化的資源の継承、発掘及び情報発信を進めます。また、年度ごとに生誕没後などの記念の年にあたる文化人を中心に、朗読コンテスト、講演会等の顕彰事業を実施します。

【分野間連携】

- ▶ 文化人に興味を持って文京区を訪れた方に、区内の観光スポットなど、区全体の魅力を紹介します。 

■区の歴史、文化に関する調査研究の実施

文京ふるさと歴史館及び森鷗外記念館において、区の歴史や文化、ゆかりのある人物等をテーマに資料収集、調査研究を行い、その成果を特別展等により公表し、区の様々な魅力を感じる機会を創出します。

【分野間連携】

- ▶ 展示等の観覧をきっかけに、文京区に興味を持ってもらえるよう、連携を行います。  

■区内の文化財、文化遺産等の保護・活用


指定文化財を中心に、区内にある文化財について調査・記録を行い、保護に努めます。関連事業の実施や標示板の設置等を行うことにより、文化財への理解を促し、調査成果をひろく周知します。

また、公開事業や観光事業等において、文化財を活用する取組も進めていきます。

■文の京ミュージアムネットワークの構築

文の京ミュージアムネットワークを構築し、区内の博物館、美術館等相互の連携をより一層深めることにより、相互協力のもと、区内文化・芸術施設の展示スキルの更なる向上を図るとともに、区内外への発信力を高めていきます。

【分野間連携】

- ▶ 区外から足を運んでもらえるよう各館の情報を盛り込んだ文京ミューズネットマップを作成・配布する等、連携して区内施設の魅力を発信していきます。 

ウ 地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進

区内の文化資源を効果的に活用し、多様な主体と連携したまちづくりを推進します。

主な取組

■文化資源を活用した地域との連携

区にゆかりのある貴重な文化資源をより身近に感じてもらうために、地域活動のイベント等と連携して発信していきます。

【分野間連携】

- ▶ 文京ふるさと歴史館友の会の活動を支援するなど、地域に関する学びや国内交流自治体との交流の支援を行います。   

■文化的なつながりを通じた連携及び発信

区にゆかりのある歴史や文化を通じて交流をしている関係自治体等と連携を図り、交流事業を展開することで、区にゆかりのある貴重な文化資源を区内外に発信していきます。

【分野間連携】

- ▶ 森鷗外などの文化人の顕彰を通じ、交流自治体との連携を強めます。   